

熊本地震 ボランティア日記(4)

南阿蘇村編

大きな被害のあった南阿蘇村は、道路が寸断されてアクセスが困難なことや、対応する人員が足りないため、県外からのボランティアは受け付けていません。

そこで、大分県竹田市が南阿蘇村支援ベースキャンプを開設し、各地からのボランティアを受け入れて、一括して南阿蘇村へ送迎する活動をしています。

そのルートを利用して参加した、4期新見と6期武方の報告(6月第1週～第2週分)です。

6月1日(水)、2日(木)

新見

6月8日(水)、9日(木)

新見、武方

6月10日(金) 活動休止日のため、阿蘇市・由布市を視察

報告: 4期 新見正康

6月1日(水) 晴れ

まずは、竹田市のベースキャンプ(BC)で受け付け



7:20頃受付開始



↑ 貼りだされた記事は下記 ↓



さだまさしが竹田BCに
100万円を寄付

13日目で500人
6月1日私の後ろの人が
ちょうど1000人目



5月1日BC開設

竹田市はH24年7月の
九州北部豪雨で大きな
被害を受けた



7:45頃
マイクロバス2台+ワゴン2台で出発
(約50名)

8:45頃 南阿蘇ボランティアセンターに到着

(移動時間1時間は長いがしかたない)



すぐにマッチング・グループング・打合せをして
資材借り出し後、割り当てられた依頼者のお宅へ
(熊本市で経験したような無駄な待ち時間はほとんど
ない)



この日の作業は、男性10名で倒壊しかけた物置小屋の廃材などを片づけて、2トンドンプや軽トラで
指定の集積場へ運ぶこと。

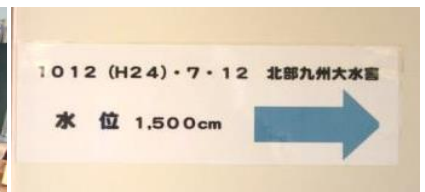
物置小屋だけに雑多なものが置いてあって、それらを規則に従って分別しながら袋詰めしたり、タンスを
壊したりしながらトラックに積み込みます。

集積場は、村内数カ所を順繰りに使って
一カ所が満杯になると別の場所が指定
され、その間に処理が行われるシステム
になっています。この日は、一番被害の大き
かった黒川地区の元小学校校庭でした。
後方は、あの阿蘇大橋をつぶした大崩落
の現場です。



依頼者の家からここまで、今までなら15分
足らずですが、道路が寸断されて大きく
迂回しなければならないので、倍以上の
時間がかかります。

作業を終えてボラセンに戻り、またバスで1時間かけて竹田のBCまで戻ると、竹田市民の心づくしのおやつ
や地産品などが、労いの言葉とともに待っています。竹田の人は、水害のときの恩を忘れず、南阿蘇の支援を
一生懸命にしてくれていると感じました。無料宿泊所として提供されている体育館には、カーテンで仕切った
簡易個室まであって、寝袋とマットを持ち込めば快適に泊られます。



水位1500cmは150cmの
間違いでしょうが・・・

差し入れの品も絶えません

近くの温泉施設が割引料金で利用できます。→

コンビニ、スーパー、ファミレス、コインランドリー、ホームセンターなども近く、不便はありません。



6月2日(木) 曇り

前日と同様の日程で開始。

マッチングのとき「黒川地区の民家」を希望。
この地区は、前日も目にしていましたが、ほとんど全滅状態で、まともに立っている家は見当たりません。



←見覚えのあったこの家は、なんと、次女が学生時代に下宿していたアパートでした。変わり果てた無残な姿に言葉を失いました。

この日の作業は、外観は家の形を保っているもののレッドカードが貼られた家の、片付けでした。壁は崩れ、床も抜けそうな危険な状態ですが、特別な保険に加入しているということなので、勇気を出して足を踏み入れました。足の踏み場もないほど散乱した家具や生活用品類、台所の食器類や食品などを、家人立会いのもと要不要に分けた後、分別しながら袋詰めして2トンダンプで搬出、という前日と似たような作業でしたが、何とか完了し、「梅雨前に終わってよかった」と喜んでもらえました。

阿蘇の山々にはいたる所に崩落の爪痕が見られ、登山道はすべて通行止めです。写真は撮れませんでした。根子岳の西峰も頂上付近が大きく崩れ、以前にも増して険しい表情を見せていました。



6月8日(水) 晴れ時々曇り

7:00am 益城町から移動してきた武方さんと竹田ベースキャンプ(BC)で合流
早速受け付け後、南阿蘇村ボランティアセンター(VC)へ向けバスで移動



途中高森町でトイレ休憩



南阿蘇村VCで打合せ後、黒川地区へ移動



被害の大きかった黒川地区には、独自のVCがあり、ここで改めてマッチングが行われます
この日は、全壊した家の壊れたブロック塀をハンマーで砕き、2トンドンプに積み込んで、がれき集積所
に運び込む作業でした。

ベシャンコにつぶれた家の方は手が着けられないので、ブロック塀の片付けだけで終了。

南阿蘇村VC経由で竹田BCへ戻ったのは17:00ごろ。無料宿泊所の体育館で1泊。

6月9日(木) 曇り時々雨

無料宿泊所→竹田BC→南阿蘇VC(8:30am)



第1現場 ちょうど2名の募集があったので、武方・新見が手を挙げて応募。

「のんびり村」のペンションで、壊れたソファーベッド2台と鏡台1台を、2階の寝室から搬出し
震災がれき集積所へ運搬。(早く終わったので、第2現場へ応援に向かう)

- 第2現場 先に入っていた10人と合流し、被災した別荘の地下倉庫から、雨水に濡れた膨大な量の「物品」を、分別しながら片付け。軽トラ3台でがれき集積所と家庭ごみ処理場に別れて運搬。
- 15:00 南阿蘇村VCへ帰着後、ボランティア証明書をもらって、500m先の村役場にて高速料金減免のための「災害派遣等従事車両証明書」を発行してもらう。
このように、そのつど行った先で申請すれば帰路の高速料金はタダになります。
実は、武方さんは「八幡-熊本」往復と「八幡-益城」往復で、新見は「北九州空港-大分米良」の往復で、それぞれ予め北九州市から発行してもらっていたのですが、きょうは乗るICが変わるため改めて申請し直したものです。
- 17:00 竹田BCに到着し解散。
武方さんは多忙のため帰路につき、新見はもう1泊することに。



6月10日(金) 晴れ がれき集積場の容量調整のため火曜・金曜は活動休み
新見は、今回の4日間の活動で目にすることができなかった「阿蘇山の北側」を見ておきたかったので阿蘇市をドライブしながら写真を撮ってきました。一部8日9日の写真も含めて報告します。



阿蘇神社

信仰心の薄い私が、思わず千円札を賽銭箱に入れてしまいました



閉鎖された赤水駅
駅前には代替バスが客待ちしていました



放置された列車、さびた線路、
向こうの山には大きくえぐられた跡が





仙酔峡登山道は青少年の家まで



阿蘇登山道はすべて閉鎖中です



北登山道は坊中キャンプ場まで



阿蘇大橋のたもとまで行ってみました。もちろん橋はありません。



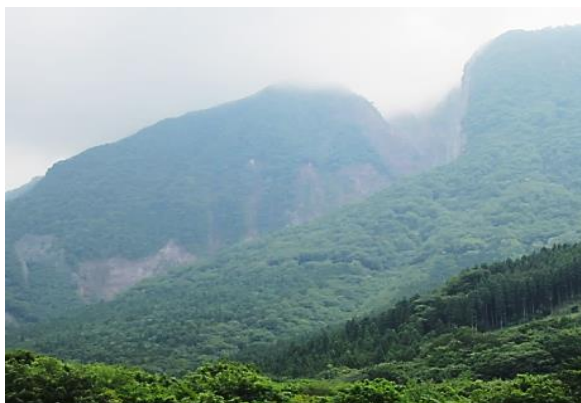
がけ崩れの現場では、無人ブルラシキ重機が



のどかな田園風景の向こうに外輪山が 無残な姿をさらしていました



仮設の水路で辛うじて田植えができる状態に



帰り道、由布PAから見た由布岳 山頂付近が大きく崩れていました